



地域資源を掘り起こす

まちおこしのプランを発表



オンラインで講師から学ぶ



真剣に話し合う塾生

阿南商工会議所が、地域や商店街活性化のための実践的なノウハウを学んでもらう「商人塾」を、(株)全国商店街支援センターの支援事業を活用し開催した。市内の商店街やまちおこしグループなどから参加した塾生33人は、令和2年9月28日より4カ月、全6回の講座を通して、地域の課題を自分事として捉え、共に学び、交流を深めた。

開催の背景には、それぞれを取り巻く厳しい現状がある。少子高齢化による人口減少などで、地域や商店街は活力を失っている。さらに新型コロナウイルス感染症の影響による地域経済への打撃が追い打ちをかける。

第1回目は、石川県白山市のまっとうまちなか商店街協同組合理事長の乙村貴正さんが、オンラインにより講師を務めた。乙村さんは、商人塾やまちゼミを開催し実践した成果から、まちを活性化するには、「地域、行政、学校、会議所などさまざまな人のつながりを生かすことが大切だ」と伝えた。



グループごとに地域の良さを探る



塾生には卒業証書が授与された

第2回目以降は、塾生はグループに分かれ、地域課題の解決、魅力の掘り起こしを図った。阿南の場所、食材、取組などを振り返り、検証。成功している事例も参考に、掘り起こした魅力を、地域の宝として磨き、具体的なプランを練った。また、動画を使った情報発信やSNSでのPR方法を講師から学んだ。

最終回で、塾生は、商人塾で学んだことやこれからチャレンジすることなどをまとめたマイプランを作成し、発表。「まちの魅力は、人の魅力。人間を前面に出したPRを行ってはどうか」「地域、企業などが共に生きていく社会を提案したい」「魅力をコラボし、新しい価値を生み出す」などの意見があった。

商人塾では、現状に危機感を持ち、真剣に話し合う塾生の姿勢が印象的だった。その想いこそが、まちの活性化に向けた原動力になるのではないかと感じた。塾生が今後どのような地域資源を掘り起こし、阿南を盛り上げていくか楽しみだ。